

鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会子宮がん部会 鳥取県健康対策協議会子宮がん対策専門委員会

■ 日 時 令和4年9月1日（木） 午後1時40分～午後2時40分

■ 場 所 テレビ会議 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

鳥取県中部医師会館 倉吉市旭田町

鳥取県西部医師会館 米子市久米町

■ 出席者 18人

〈鳥取県健康会館〉

渡辺健対協会長、皆川委員長、岡田・村江・高橋・岩佐・萬井各委員

県健康政策課がん・生活習慣病対策室：上田課長補佐

健対協事務局：岡本事務局長、岩垣次長、廣瀬主事

〈鳥取県中部医師会館〉明島・周防・秋久各委員

〈鳥取県西部医師会館〉谷口部会長、中曾・脇田・佐藤各委員

【概要】

- ・ 令和3年度のHPV併用検査の実施状況は、鳥取市は受検率29.6%、要精検者17人で要精検率3.05%、米子市は受検率39.1%、要精検者40人で要精検率2.70%、南部町は受検率11.9%、要精検者は8人で要精検率4.68%、日野町は受検率9.9%、要精検者0人で要精検率0.00%であった。
- ・ 令和3年度（速報値）の子宮頸がん検診受診者は30,942人、受診率23.8%であり、新型コロナウイルスのがん検診受診への影響は、全体として、集団検診ではコロナの影響が顕著で受診控えが見られるが、各市町村対策をとっており、個別の受診勧奨等の工夫が見られ、概ね回復傾向である。
- ・ 子宮頸がん受診者数は、30歳代で減少傾向が続いている。R1水準までは回復していないが、40歳代・50歳代・60歳代・70歳代・80歳代で改善傾向が見られ、特に70歳代・

80歳代で、改善傾向が大きい。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

新型コロナウイルスはオミクロン株の急激な広がりにより、なかなか終息しない状況である。鳥取県においても、連日、1日の新規陽性者が千人を超える日が続いていたが、8月24日以降は、千人を割り減少傾向となっているが、まだまだ予断を許さない状況である。また、9月2日からは、鳥取県を含む4県においては、陽性者の全数報告は行わないこととし、重症化リスクのある方を中心にフォローアップを行い、リスクの低い方は、別の方法で把握を行うこととなる。地域の医療体制は維持しながら、withコロナの社会の中で、どのように健康維持し、社会生活を維持していくのが今後の課題である。

本日の議題にもあがっているが、コロナ禍における検診のあり方について、予想されたほどの検

診受診率の低下ではなかったが、検診はがん対策の基本であり、しっかりとした取り組みが必要である。子宮頸がんはヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンによる予防効果があるとされる。接種による副反応への懸念から、なかなか推奨できない状態が続いていたが、今後は国全体として積極的推奨が再開となり、子宮がんの予防において、大きなインパクトになると期待している。本日は実りある会議となるようお願いしている。

〈谷口部会長〉

原田部会長から代わり、今年度から子宮がん部会の部会長となった。よろしくお願いする。本日はHPV併用検査の件数等が、報告事項として挙げられている。長丁場となるかと思われるが、本日はよろしくお願いする。

〈皆川委員長〉

前回HPV併用検査の問題点について解説した。それに先立ち2019年に子宮頸がんの検診ガイドラインが出ている。それらを踏まえ、鳥根県の実情等を調査した。この件について後程、鳥根県の子宮がん検診について提案させていただく。よろしくお願いする。

報告事項

1. 県内におけるHPV併用検査の実施状況について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室
課長補佐

○鳥取市、米子市、南部町、日野町HPV併用検査の令和3年度実施状況について報告された。

	対象者	HPV検査 受検者数	HPV陽性	要精検（細胞診）		AIS、CIN、 腺異形成
				HPV（+）	HPV（-）	
鳥取市	1,886人	558人（29.6%）	63人（11.3%）	12人（2.2%）	5人（0.9%）	17人
米子市	3,793人	1,483人（39.1%）	148人（10.0%）	26人（1.8%）	14人（0.9%）	40人
南部町	1,430人	171人（11.9%）	17人（9.9%）	5人（2.9%）	3人（1.8%）	8人
日野町	81人	8人（9.9%）	0人（0%）	0人（0%）	0人（0%）	0人
計	7,190人	2,220人（30.9%）	228人（10.3%）	43人（1.9%）	22人（1.0%）	65人

2. 他県（松江市、出雲市）におけるHPV併用検査の実施について：皆川委員長

検診アウトカム指標としては、2009年度版の死亡率減少効果から2019年度版の浸潤がん罹患率減少効果に基準を変えることについてコンセンサスが得られていると思われる。細胞診単独検診、HPV単独検査、細胞診・HPV検査併用検診のアルゴリズムについては別資料のとおりである。細胞診・HPV検査併用検診では、前がん病変（CIN2以上）発見精度の向上、受診間隔の延長の利点がある一方、要精検率の上昇、アルゴリズムの複雑化等の問題点も指摘されている。鳥根県内で共通したプロトコルで細胞診・HPV検査併用検診を導入することを前提として、松江市と出雲市

の検診実態の資料提供をいただいたので、現在鳥取市と米子市で実施されている併用検診とを比較検討した。今後、合理的な対象年齢、検診間隔について検討を進めていきたい。

3. 新型コロナウイルスのがん検診受診への影響について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室
課長補佐

令和3年度（速報値）の子宮頸がん検診受診者は30,942人、受診率23.8%であった。

令和元年度～令和3年度に市町村が実施した子宮がん検診の受診者数、受診率の比較を行った結果は、以下のとおりである。

- ・令和3年度は令和元年度と比較して受診者数は4.3%減少し、受診率は1.1ポイントの減少であった。令和2年度は令和元年度と比較して受診者数は7.6%減少し、受診率は平均1.9ポイントの減少となったが、令和3年度は令和2年度と比較して受診者数は3.7%増加し、受診率は0.8ポイントの増加であった。
- ・市町村からの聞き取りを行ったところ、集団検診では、新型コロナウイルス感染症の影響が顕著で受診控えが見られるが、個別の受診勧奨等の工夫が見られ、概ね回復傾向である。
- ・年代別に見てみると、30歳代で、減少傾向が続いている。また、令和元年度水準までは回復していないが、40歳代・50歳代・60歳代・70歳代・80歳以上で改善傾向が見られる。特に70歳代・80歳代で、改善傾向が大きい。

4. その他

HPVワクチン接種の啓発について：

上田県健康政策課がん・生活習慣病対策室
課長補佐

平成25年4月からHPVワクチンの定期接種が

開始されたが、接種と因果関係が否定できない持続的な疼痛の発生等を受け、同年6月から積極的勧奨が差し控えられていた。その後、ワクチンの安全性・有効性に関する最新のエビデンス等を踏まえ、令和3年11月12日の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会において、接種の積極的勧奨を再開すべきと判断された。さらに、接種機会を逃した方を公費接種の対象に加える方針を決定され、対象者への積極的接種勧奨が再開された。

市町村や関係機関へ、厚生労働省作成の改訂版リーフレットの周知を行った。また、県ホームページや県政だより4月号の周知等を行っている。

協議事項

1. 子宮がん検診従事者講習会及び症例検討会について

日程は例年通りの令和5年2月中の日曜日に、西部地区で開催予定。講師は、佐藤委員を中心に決めていただくこととなった。